

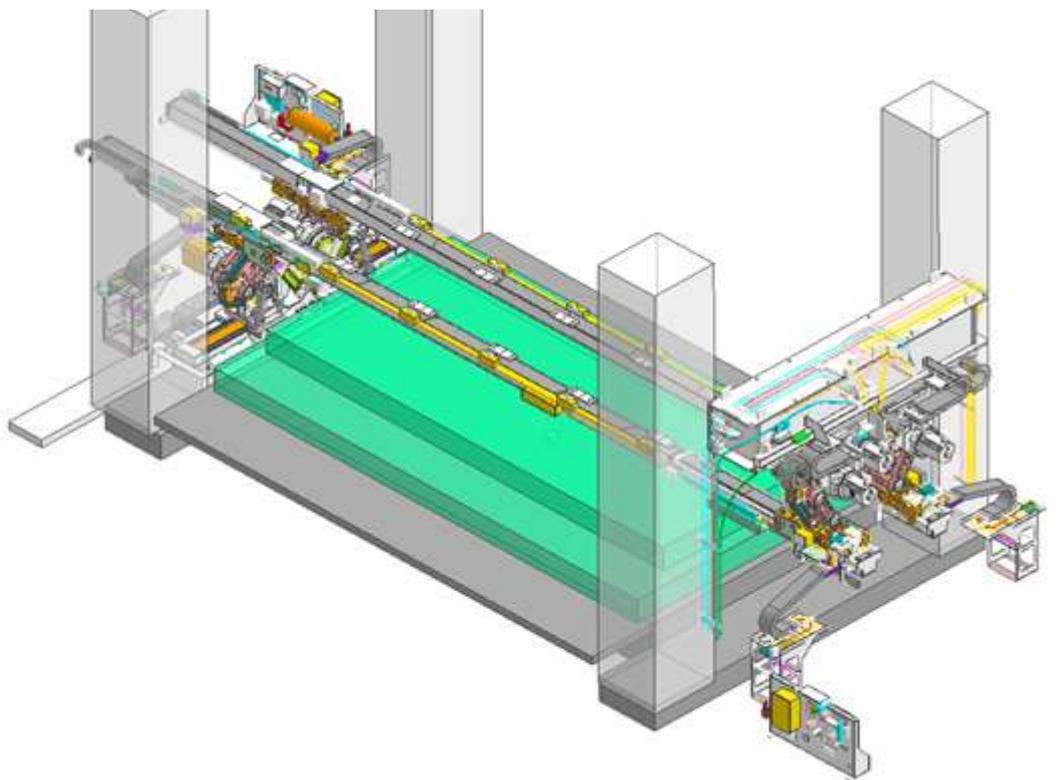
サーボトランスファフィーダ「LTF2-1」新発売

コマツ(社長:大橋徹二)の100%子会社であるコマツ産機株式会社(社長:川西宣明)は、搬送速度が世界最速レベルとなる大型サーボトランスファフィーダ「LTF2-1」を2019年1月に発売しました。

当該機は、加工難易度によってスライド速度が制限される場合でも搬送速度が高められ、生産性が従来機に対して最大25%向上し、世界最速レベルとなる35spmを実現しました。

トランスファバーにアルミを使用して軽量化し、リニアモータによりフィード機構の高速化を実現させ、リンク構造を新規採用したクランプ・リフト機構でコンパクト化、耐久性を向上させました。さらに独立したクランプ・リフト機構により、左右のバー内幅調整が可能となり、フィンガ形状の最適化が行えるようになりました。

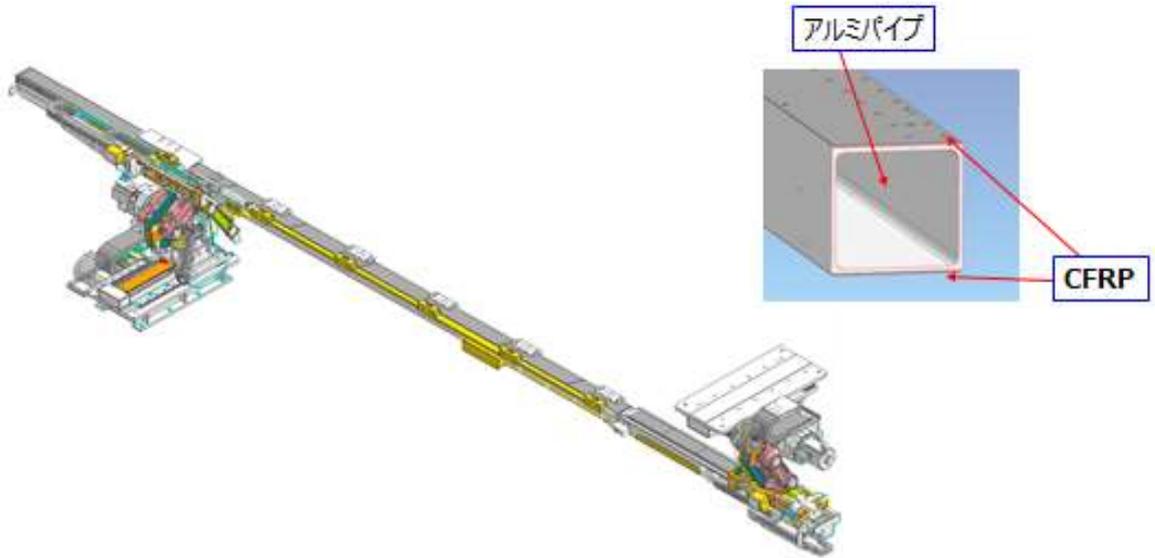
[LTF2-1 概観図]



[主な商品の特徴]

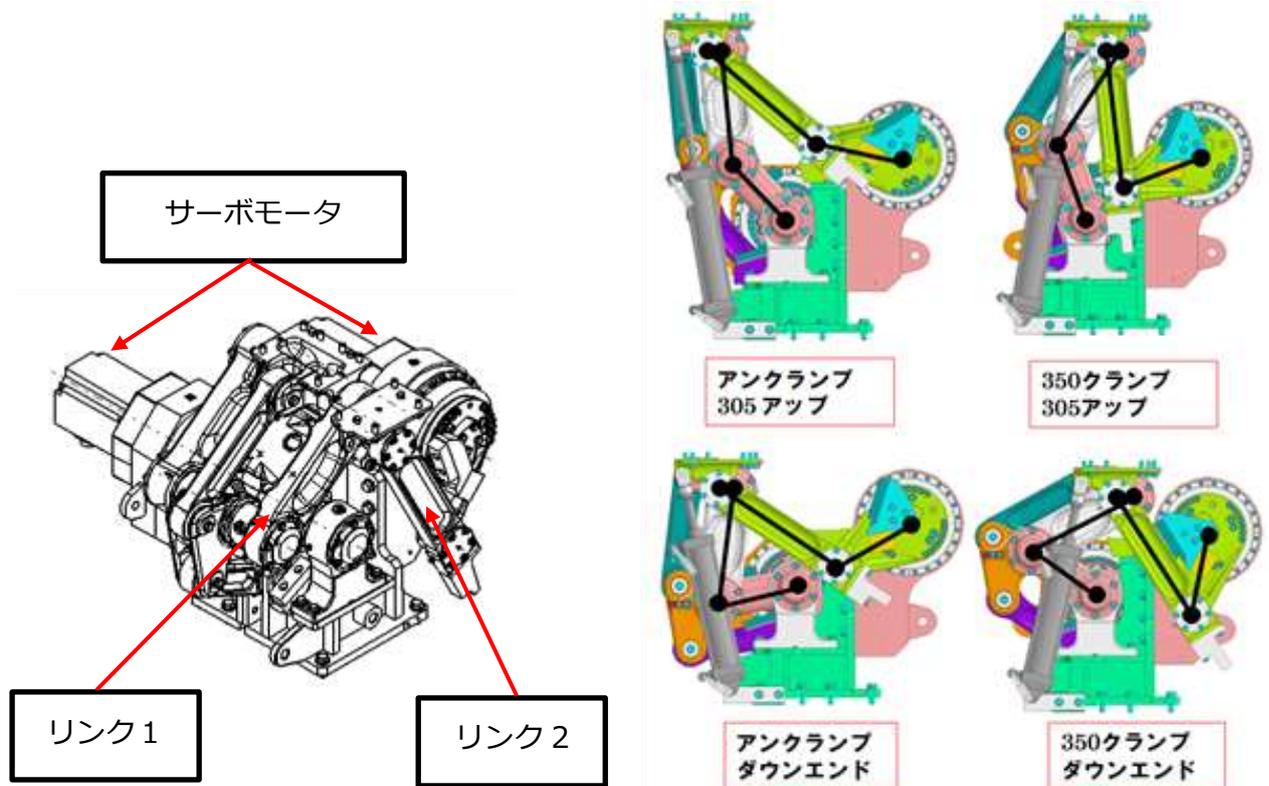
1. 生産性の向上

トランスファバーをアルミパイプ+CFRP構造で軽量化し制震制御の採用とリニアモータ駆動での推力アップで高速化を実現しました。(1200mm フィード、35spm は世界最速レベル)



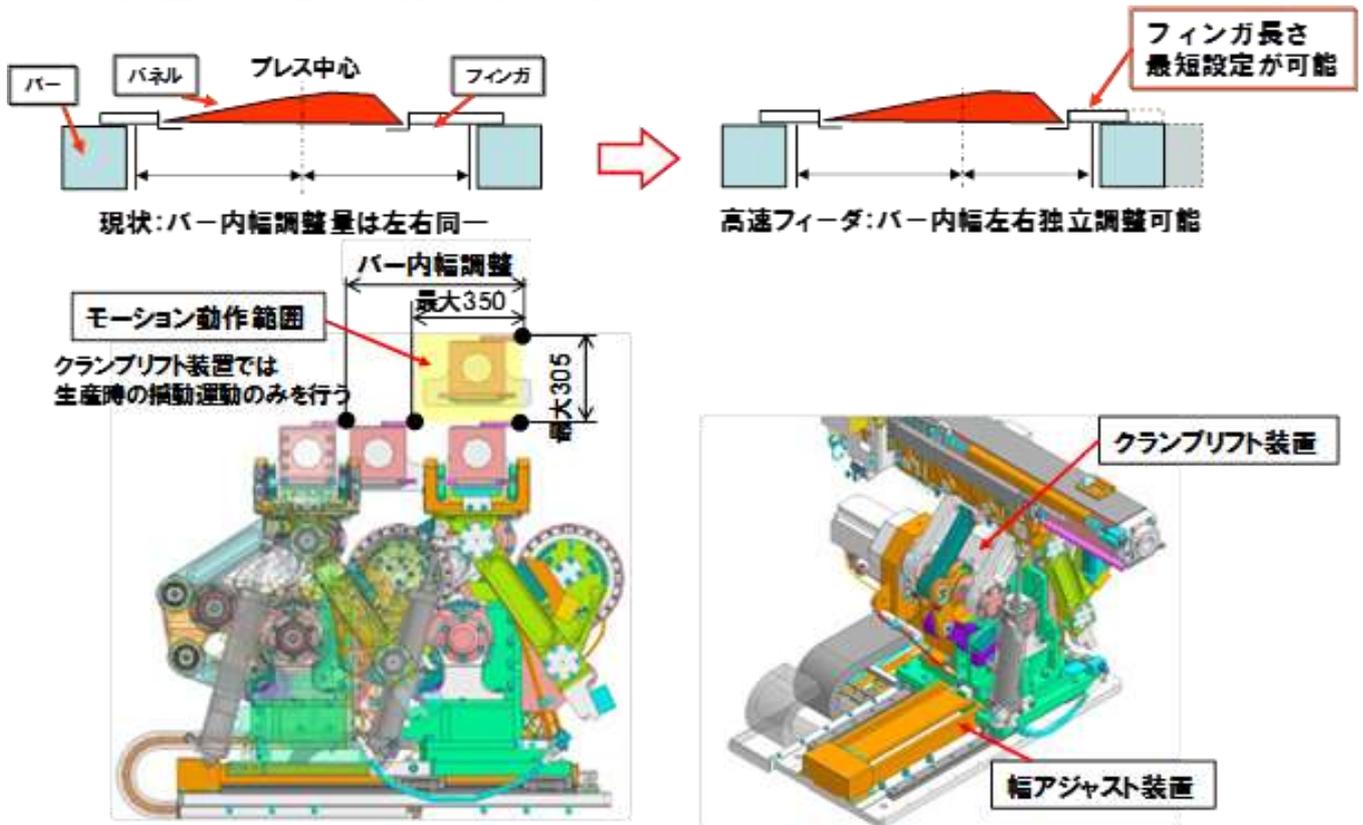
2. 耐久性の向上

クランプ・リフト装置にリンク機構を採用し、ユニットをコンパクト化すると共に機構部品の耐久性を向上させました。(特許出願済み)



3. 独立型クランプ・リフト装置によるバー幅自由度の向上

クランプ・リフト装置の独立ユニット化でバー内幅の左右独立調整ができ、フィンガ長さの最短設定、フィンガ調整時間の短縮が可能になりました。



4. 保全性の向上

従来機で使用していたクランプ・リフト装置のボールねじ及びリニアガイドを廃し、リンク機構を採用することで、定期交換部品を削減しました。オーバーホールはクランプ・リフト装置のユニット交換で対応します。

【LTF2-1 主仕様】

項目	単位	内容		
フィードストローク	mm	~1000	~1200	~1500
クランプストローク	mm	Max.350		
リフトストローク	mm	Max.305		
生産速度 (※)	spm	~35		~32
バー内幅	mm	800~2700 (片側950st)		
可搬重量	kg	200		

※条件によって表記以上も可能

[商品概要]

【機種名】 LTF2-1（高速フィーダ）
【発売月】 2019年1月
【販売目標】 5台/年
【販売価】 1億円

[商品に関するお問い合わせ先]

〒920-0225 石川県金沢市大野町新町1番地1
コマツ産機株式会社 営業本部 営業管理部 管理グループ
TEL:076-293-4209 FAX:076-293-4354
URL:<http://sanki.komatsu/>

ニュースリリースに記載されている情報は発表時のものであり、予告なしに変更される場合があります。

以上